

西宮市立郷土資料館ニュース 第16号

西宮市立郷土資料館 兵庫県西宮市川添町15番26号 〒662 電話0798-33-1298



高等女学校教科用図書

目次 CONTENTS

教科用図書収蔵の現況について (上田清二) …2

鳴尾の一本松とエビス神の伝説について (上) (井阪康二) …5

寄贈資料一覧…8

# 教科用図書収蔵の現況について

上田清二(当館嘱託)

---

## 1. 資料の現況

西宮市立郷土資料館は、平成3年3月、『収蔵資料目録第一集 教科用図書』を出版した。教育史、教科書史研究の一助にとの願いで、初等教育教科用図書として明治以前、明治初期、明治検定期、国定前期、国定後期のもの、中等教育用教科用図書として、旧制中学校のもの計3244冊を収録している。

その後も寄贈・購入等により収蔵冊数も増え、高等女学校、各種実業学校、青年学校、師範学校等の教科用図書を含めた整理を進め別表の通りの収蔵状況となっている。

収蔵冊数も可成のものではあるが、より価値の高いものをより豊富にと一層の充実を目指し、保存、収集、整理作業を続けている。

- (1) 明治初期の教科用図書と掛図類の収集
- (2) 国定教科用図書の基本図書の基本教科・修身、国語、歴史、地理について新版、修正版ごとに欠本を補充、全学年完備
- (3) 時代の変換点となる代表的なもの（使用禁止本を含む）の整備
- (4) 旧制中学校、高等女学校の教科用図書の整備
- (5) 昭和21年から24年3月までの文部省著作教科用図書の整備

21世紀に向かって日本の教育が大きく変わろうとしている今日、日本人の魂の古里である文化財・戦前の教科用図書に触れ、日本の教育の原点を見据え、未来社会を主体的に生き抜く、より確かであり豊かな教育が創造されればと思う。既刊の収蔵資料目録・別表をもとに多数の方々に活用いただければ幸いである。

## 2. 資料の紹介

最近、生涯学習の一環として主婦の方々の様々な学習グループへの旺盛な参加意欲、社会参加が目だっているが、そういう場での資料の一つとしても、教科用図書を大いに活用していただければと思う。例えば、育児、子育て、躰、教育、家庭教育、家族の役割、礼儀作法等について。ここでは、収蔵の高等女学校教科用図書の中から2、3紹介したい。

- (1) 『家事教程』（星 常子、中島と志子著 明治38年 明治図書）

衣食住、養老育兒、教育、看護、一家の整理及び経済…、育兒、教育、家族の役割等、現在の課題に通じるものが多い。

(2) 『高等女学校用 教育学』(乙竹岩造著 大正8年 培風館)

「児童生理、児童心理に基づき一般教育、特に家庭教育に関する確実なる理念を得しむるにあり」と編纂の意図に述べている。幼児教育、家庭教育論は充実、胎教にも触れている。小学校令、小学校令施行規則摘要も付録に挙げている。小学校令第47条「小学校長及教員ハ教育上必要ト認メタルトキハ児童ニ懲戒ヲ加ウルコトヲ得、但シ、体罰ヲ加ウルコトヲ得ズ」とある。明治大正時代から体罰が禁止であったことに注目したい。教科、科目の多様化が進められている現在の高等学校にも教科、教科用教科用図書は見当たらない。

(3) 『新作法書』(佐保会編 昭和10年 至誠堂)

・生徒としての心得・娘としての心得・先生に対する作法・友人との交際・家庭に来客ありしときの心得・主婦としての心得…これこそ日本の伝統文化、生活習慣だという詳細を極めた作法書であり、この種のものを書店で見付ける事は容易でない。第7章「結婚」では、参考例として、本市広田神社に於ける、結婚式次第等が詳しく取り上げられている。

3. 西宮市立郷土資料館収蔵教科用図書冊数(平成7年1月1日現在)

表(1)~(4) 合計4443冊

註：1は藩学・寺子屋の教科書。2の明治初は明治初期の翻訳教科書(明治5~12年)・儒教主義復活の教科書(明治13~18年)、明治検は明治検定期(明治19~36年)の教科書、国定前は、国定前期・国定1期(明治37~42年)・同2期(明治43~大正6年)・同3期(大正7~昭和7年)・同4期(昭和8~15年)の教科書、国定後は国定後期(昭和16~20年)の教科書。

(1)明治以前教科用図書

教科	総記	心学 道話	日本 歴史	数学	生理 衛生	漢籍	往来物 (語彙科)	往来物 (消息物)	往来物 (教科)	往来物 (歴史科)	往来物 (地理科)	往来物 (産業科)	往来物 (社会科)	往来物 (理数科)	往来物 (女子用)	計
冊数	57	24	58	45	6	172	6	30	48	2	5	26	27	27	21	554

(2)初等教育用教科用図書

教科等	明治初	明治検	国定前	国定後	計
修身	109				109
修身(尋常)		61	88		149
修身(初等)			17		17
修身(初等)教師用		4	3		7
修身(初等)教師用			4		4
修身(高等)		40	20		60
修身(高等)教師用		8			8
日本歴史	30				30
歴史		49			49
歴史(尋常)			29		29
歴史(尋常)教師用			6		6
歴史(初等)			13		13
歴史(高等)			15	1	16
歴史参考書			11		11
外国史	6				6
地方史		2			2
地理学	23				23
地理		37			37
地理(尋常)			46		46
地理(初等)			11		11
地理(初等)教師用			2		2
地理(高等)			17	1	18
地図	3	3	22	3	31
日本地理	22				22
地方誌	1	7			8
地理教授書		1			1
地理参考書			1		1
外国地理	20				20
公民		4			4
法制・経済・公民	6				6
作法	6	1	6		13
作法参考書				5	5
理科	7	37			44
理科(尋常)			29		29
理科(尋常)教師用			5		5
理科(初等)			14		14
理科(初等)教師用			8		8
理科(高等)			17	1	18
理科(高等)教師用			3		3
理科参考書			2		2
算術、代数、数学	39				39
算術、数学		28			28
算術教授書		4			4
算数(尋常)			67		67
算数(尋常)教師用			20		20
算数(初等)			55		55
算数(初等)教師用			13		13
算数(高等)			14	1	15
算数(高等)教師用			6		6
幾何	3				3
珠算、和算	14	2			16
算数参考書			2		2
物理	21				21
化学	4				4
鉱物	2				2
博物	2				2
植物	2				2
動物	5				5
生理衛生	10		1		11
家事裁縫	7			2	9
家事裁縫(高等)			7		7
家事裁縫教授書			1		1
家事裁縫(高等)教師用			1		1
家事裁縫その他			4		4
農業	4		7		11
農業(初等)			1		1
農業(高等)			1		1
商業	2		2		4
図画	7	33			40
図画(尋常)			51		51
図画(尋常)教師用			4		4
図画(初等)			20		20
図画(初等)教師用			6		6
図画(高等)			20		20
図画(高等)教師用			1		1
その他の図画教科書			5		5
手工			5		5
音楽	5				5
唱歌		9			9

唱歌(尋常)				16		16
唱歌(高等)				3		3
音楽(初等)					10	10
音楽(初等)教師用					9	9
音楽(高等)					1	1
その他の唱歌教科書					36	36
体操・遊戯						1
体操				1		1
国語入門		53			2	53
国語入門教授書			3			3
読本		67				67
読本(尋常)			133			133
読本(尋常)教授書			1			1
国語(尋常)				133		133
国語(初等)					46	46
国語(初等)教師用					5	5
読本(高等)			94			94
読本(高等)教師用			1			1
国語(高等)				40		40
国語参考書				6	1	7
習字		39				39
習字(尋常)			71	109		180
習字(初等)					11	11
習字(初等)教師用					2	2
習字(高等)				25	36	61
習字参考書					2	2
作文		38	14	4		56
作文教授書			9			9
外国語		5	11	5		21
計	563	694	929	264	2450	

(3)中学校、高等女学校用教科用図書

教科等	中学校				高等女学校			
	明治	大正	昭和	計	明治	大正	昭和	計
修身	10	4	44	58	6	10	24	40
勸語	2			2				0
倫理	4			4				0
日本歴史	11	3	9	23	6	2	9	17
地方史			6	6				0
東洋史	2	3	9	14	3	2	8	13
西洋史	1	4	5	1	2	4	7	17
地理通論			6	6	1	3		4
地文学	2			2				0
地図	10	3	17	30	1			1
日本地理	4		6	10	2	1	4	7
地方誌			3	3				0
外国地理	4	6	10	20	1	3	5	9
公民			6	6			3	3
法制経済		1	3	4				0
教育	-	-	-	0		1	4	5
作法(礼法)				0				4
理科一般	1		15	16				8
数学一般			3	3				3
算術・代数	17	7	14	38	6	5	5	16
幾何・三角法	10	8	13	31	1	1	2	4
珠算				0				1
物理	5	2	1	8	1			2
化学	5	4	1	10	1	2	2	5
鉱物	2	1	1	4	1	1	2	4
博物		1	8	9				4
動物	5	3	1	9	1			3
植物	7	1	6	14	2			4
生理衛生	1	2	4	7	3	2	3	8
家事	-	-	-	0	3	8	12	23
裁縫	-	-	-	0		6	20	26
育児	-	-	-	0				2
農業				0				3
図画	14	11	9	34		4	8	12
音楽	1	2	9	12	6	11	28	45
体操				0				1
国語読本	47	12	89	148	23	11	51	85
国文学	10	6	15	31	2	5	16	23
国文学史				2				0
習字		5	1	6	12	1	11	24
作文	5	4	12	21	4			14
漢文	14	20	36	70		1		1
英語一般英語読本	19	5	23	47	5	4	10	19
英語副読本				3				0
英文法	4	3	3	10				1
英作文・英文和訳	1	1	4	6				1
計	218	118	396	732	92	86	282	460

(4)その他の教科用図書

校種	各種実業学校	実業補習学校	青年訓練所	青年学校	師範学校	その他	計
冊数	79	61	3	14	81	9	247



# 鳴尾の一本松とエビス神の伝説について（上）

井阪康二(当館館長)

---

## 1. はじめに

### 鳴尾の一本松

『武庫郡誌』（武庫郡教育会 1921）の「鳴尾の一つ松」の項に鳴尾の里に人々の目をひく一つ松があった。古老の伝えによると、この松は八幡神社の西南部にあって、この巨大な松は実に鳴尾の目標であった。その大きいことは朝日がさせばその影は一の谷にうつり、夕日がさせば山崎天王山にその影がうつったという巨大さであった。「最近まで、この一つ松の株があったが、今はそのあとかたもない」と同書は書いている。朝日で松の影が須磨の一の谷をさし、夕日で松の影が天王山をさすといえ、摂津国の西国街道の西の端と東の端をしめしている。また、『鳴尾村勢要覧』（鳴尾村 1938）の「鳴尾一本松」に、昔、天にそびえる大きな松があり、詩歌に読まれ、かつ航海者の目標となったと言われている。今あるのは3度植え継がれたものであるという。この要覧では一本松が鳴尾の沖を通る船の目標になっていたという伝説を持っていたことがわかる。なお、鳴尾の松については『摂津名所図会』に「鳴尾の一つ松今さだかならず。古歌に詠ず」とある。また『摂陽群談』にも出てくる。

現在、3代目の一つ松が西宮市里中町2丁目にあり、ここには弘化2年（1845）8月に建てられたこの松の顕彰碑がある。この碑の内容の梗概は次のとおりである。

尼崎の西一里の所に戸数六百余の鳴尾村がある。ここに古松が一本ある。この松は青々と繁り、幹は太く、うろこのようなしわがある。

この松の姿は他の松にくらべてもよく、また長年月を経ているので、孤松と称されている。昔より霞のごとく大きく繁っているようすが歌にうたわれているので、あるいはかすみ松とも称されている。

この松は初代から千年を経ているので、おうよそ、3回植え継がれて今にいたっている。

この松について『武庫郡誌』に次のような資料を載せている。寛政5年（1793）に松下氏という人が、京都の画家法眼呉浚明に畫面させた「一つ松」の絵の讃である。その梗概はおおよそ次のようなものである。



### 現在の鳴尾の一本松

霞の松は千載集、続古今集、夫木集によく読まれている。霞の松は朝日には兵庫の浦に影がうつり、夕日には暗峠にその影をうつすといえ、その高さはおして知るべしである。俗説ながら高砂の松の譚に、西宮の沖と言わずに遠く鳴尾の沖と言うのも、この霞の松に由来するのであろうか。

このように、一本松は昭和には天にもそびえる大きな松で、鳴尾の沖を通る船の目標になったという。大正にはその大きさは影が須磨の一の谷と山崎の天王山にうつると言われた。江戸時代はその影は兵庫の浦と暗がり峠をうつすといわれ、高砂の松の譚（筆者註謡曲「高砂」のことと思われる）に西宮の沖すぎてといわずに、遠く鳴尾の沖というのは、この大きな松に由来するといわれているほど、大きな松であった。

### えびす神の伝説

西宮神社のえびす神にはつぎのような伝説がある。それは、鳴尾浜の漁師が鳴尾の沖でえびす神の像を網であげた。一たんは海へ捨てたが、その夜、漁師の夢枕にえびす神がでて、「私を西へ連れていけ」といわれた。漁師は翌日網を入れるとえびす神の像がかかり、その像を戸板に乗せて運び、今の西宮神社の所に祀ったというのである。

ところで『摂陽群談』に「蛭子浦（ひるこのうら）」とあり、武庫郡西宮の浦あたりをこう呼ぶ。蛭子尊は足が立たなかつたので、天磐椽樟船にのせて流された。流れついたところに祀られたのが沖荒夷社であるという。

このえびす神と蛭子伝説<sup>(1)</sup>について、横田健一氏は『西宮市史』第1巻（西宮市 1960）の「夷神が蛭児となった理由」に「それでは夷神にどうして蛭子が付会されるにいたった

か。常識的にいえば夷すなわち外国人・野蛮人・外来人であり、夷神とは外より来る神という意味にとれる。それは海をわたって流れより来た神の意であろう。そして蛭児こそは天磐櫂樟船にのせられて流された神である。どこへ流れついたか不明である。おそらく西宮夷社には、この神が、海からながれよった神とか、あるいは海からひろいあげられてまつられるにいたったという縁起伝承が、社伝として、あるいは土地の俗伝としてはやくから伝えられていたのではないか。そこに兼俱が室町時代後期に「海社歟」としてしたゆえんがある。また近世の魚崎の人松尾綾平が土俗口碑としてしるすにいたった、鳴尾の浦の漁夫が神像を網にて引きあげ、それを投げ込んで、ふたたびこれを和田岬沖でえたので、ついにその神像をまつたという話が伝えられたゆえんであろう。こうした土俗口碑はいろいろに変形されるが、もっとも本質的な部分はなんらかの形で保存されるものである」とある。

えびす神は蛭子神と結びつけて考えられているが、えびす神は西宮の浜と関係してもいいのに、あくまでも鳴尾の沖を主張するのである。

ここでは、鳴尾の一本松の伝説の背景とえびす神が鳴尾の沖である理由を考えていきたい。

## 2. 西宮と淡路島

『桜戸雑話』（『研究報告第二集』西宮市立郷土資料館 1993）に今津村にあった藁屋の家が1軒、洪水のために淡路島に流れ着いた話を載せている。その梗概は次のようなものである。

武庫川の川切れはすごかったらしく、武庫川の大市村部分の堤防が切れて、郡中一面湖水のようになった。私（『桜戸雑話』の著者）の家は西宮下手筋にあるが、床より上2尺余り浸水した。

私の幼児のときに父母より聞いているのは、元文5年（1740）の洪水が凄かったらしく、これを土地の人は「申年切れ」と呼んでいる。このときの洪水で、今津村の浜辺にあった藁屋1軒がそのまま海中へ流れ出して、かろうじて淡路島へ漂着して、この家の人は浦人に助けられたという話である。

ここで興味深いのは『西宮市史』第1巻に、中世、兵庫港では船の関所があったので、それを避けて西宮潟へ入ってくる船があった。そして「四国の阿波あたりからは西宮へ直接入港したのであろう」とあり、中世に阿波と西宮の間に航路があったのである。また同書に西宮と淡路の往来については「寿永3年（1184）4月、西海の平氏追撃を企てた源頼

朝は、淡路国広田庄を広田社に寄進した。これは古代の広田郷内であり、もともと広田社の神戸でもあった地が、武士などに横領されていたのを復興させるかたちかも知れない。また淡路島と西宮との交通の点を考えて見ても、広田社の神威が淡路島におよんでいたともいえる」とある。これは、『西宮神社の歴史』（西宮神社 1961）に淡路島は人形操りの盛んなところで、これは西宮の人形操りの一部が淡路島に移ったという。そして「帰するところ百太夫神を信仰し、この人物が人形をもって戎神を慰めたということが淡路人形のはじまりであると信じる点では一致しており、現今も一座を率いて諸国を巡業する座もその出し物の一幕には戎神の由来や、戎神に豊漁を祈る一段がかならず出てくるほどである」と指摘している。西宮と淡路は往来があったことがわかる。

鳴尾公民館推進員をしておられた高地さんより「鳴尾には淡路からきた瓦屋さんが多いです」と教えていただいたことがある。そして、鳴尾浜から淡路行のフェリーが出ているのである。鳴尾と淡路の間は海流の関係で往来がしやすかたなのであろうか。

(以下、次号)

寄贈資料一覧（平成6年5月～平成6年12月、敬称略）

雅楽籠笛譜・伶人装束・烏帽子・オムツ・着物・大工道具・ミシン針（坂口昌弘）、椀・手洗い・炭入れ・すき焼きセット付きチャブ台・天袋の戸・箱入り脚付き膳（矢田富美江・清栄）、天びんばかり・おもり（田中国恵）、蚊帳（小西幸雄）、衣料切符・り災者証明書・り災者物資購入券（高田淑子）、予科練上着上・予科練上着下・予科練下着・予科練シャツ・予科練靴下・予科練ボタン・もんぺ・戦時債券手帳・第3回有馬郡協力会議と案・陸軍用箋（中山 沃）、奉公袋（服部盛久）、伝単・雑誌『L I F E』（1945.9.17、1945.8.20）（野木宗正）、鳥よけ棒・スジキリ・ジョレン・天秤棒・箕・いす・桶・竹籠・筵・いちご出荷用の箱・みかん箱・稲干棒・篩（村本和夫）、天秤ばかり・おもり・手鉤・手鏡・小刀部品・キセル・矢立・硯・算盤（橋本惣右衛門）

ご寄贈ありがとうございました。

西宮市立郷土資料館ニュース第16号 1995年(平成7年)1月1日発行